

2026年度 活動計画

1. 技術開発事業（開発委員会）

2025年度に引き続き、他団体と連携を図り、開発事業を進める。代表的な例としては、下記のとおりである。

①林野庁補助事業として、（一社）日本 CLT 協会と（公財）日本住宅・木材技術センターとの共同事業のうち、日本 CLT 協会として小委員会を開設し、昨年同様に、森、中川共同にて、CLTStructWorks が IFC に求める必須となる要件定義の検討、必要に応じて、CLTStructWorks 専用の IDS ファイルの開発を進める。

なお、林野庁からの正式な申請結果は受けてはいないが、内定が出たため、すでに活動を開始している。

②都合 8 年間継続している（公財）日本住宅・木材技術センターの林野庁補助事業の木造 BIM の委員会だが、2026 年度の委員としての参加のオファーは来ていない。

③日本 CLT 協会内にある、森が主査を務める DXWG にて、プレカット CAD と BIMCAD を連携する際の問題点の抽出及び BIMCAD メーカーを巻き込んだ改善策などの検討を進めている。

2. 情報提供事業（普及広報委員会）

①過去 2 年間実施してきたアンケート活動については、一定の実態把握ができたことから、今後は実運用事例の収集・発信を中心とした活動へ重点を移していく。

②プレカット CAD で作成された高精度データを活用した CEDXM 連携事例について調査・紹介を進める。

- ③特に、プレカット CAD から意匠 CAD・構造計算ソフト等へのデータ連携による業務効率化事例について、プレカット工場・設計事務所等へのヒアリングを実施し、実運用に基づく情報発信を行う。
- ④2年前に総会で発表されたウッドライン、ホームエクスプレス構造設計、U's Factory、ディックスなどへのヒアリングを実施し、CEDXM 連携の活用事例として情報発信を検討。
- ⑤多角的な広報活動（WEB マガジン、CEDXM 紀行など）の企画、実運用事例やエラー事例の収集・共有を検討。
- ⑥新たに「サポート委員会」（仮称）を立ち上げ、普及広報委員会と連動し、CEDXM 連携時の課題整理、導入支援、エラー事例共有等を含めたサポート体制の充実を図る。
- ⑦耐震性能見える化協会（wallstat）が進める事業、イベント等の普及促進への支援を行う。

3. その他

（1）総会・基調パネルセッションの開催

開催日時：2026年6月10日（水） 総会：14：00～14：45

（基調パネルセッションは15：00～17：00）

開催方法：総会是对面開催／基調パネルセッションはハイブリッド開催

会 場：京都大学東京オフィス会議室 A・B

テ ー マ：シーデクセマ活用の最前線と将来展望

（2）理事会の開催

事業の進捗状況により年4～5回の開催を予定している。

（3）情報発信

評議会ホームページ、メール等により随時会員、一般への情報発信を行う。また、メディアへの情報提供も随時行っていく。